

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における敷津浦小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の^1原則として全児童
- ・敷津浦小学校では、5年生 67名

3 調査内容

- ・児童に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 - イ 質問調査
運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立敷津浦小	学校	児童数	67
----------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20m シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.51	20.21	31.32	32.00	46.00	9.39	154.50	21.40	50.23
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.36	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.81	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	15.71	18.36	34.58	31.76	31.56	9.86	138.76	11.96	51.04
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	19.00	38.15	38.70	36.85	9.77	143.34	13.11	53.97

結果の概要

体力合計点は、男子50.23点、女子51.04点であり、男女ともに大阪市平均（男子51.54点、女子52.58点）及び全国平均（男子53.02点、女子53.97点）を下回る結果となった。全国平均との差は男女ともに約3点あり、全体的な体力水準の底上げが必要である。

運動習慣については、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は男子12.5%、女子12.2%であった。男子は大阪市平均（11.7%）及び全国平均（9.8%）をやや上回り、運動不足傾向が見られる。一方、女子は大阪市平均（20.0%）及び全国平均（17.3%）を下回っており、一定の運動習慣は確保されていると考えられる。

各種目の状況を見ると、男女ともに20mシャトルランの結果から持久力に課題が見られる。また、男子は走力や瞬発力、柔軟性にやや課題があり、女子は体幹筋力や投能力に課題が見られるなど、体力要素ごとの偏りがうかがえる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

【これまでの取り組みの成果】

女子の運動時間60分未満の割合が市平均・全国平均を下回っていることから、体育授業の充実や休み時間の外遊びの推進など、日常的な運動機会の確保に関する取組は一定の成果を上げていると考えられる。また、反復横跳びなど敏捷性に大きな落ち込みが見られないことから、基礎的な身体操作能力の育成は図られている。さらに、女子の柔軟性が比較的良好であることから、準備運動やストレッチの継続的な指導の成果もうかがえる。

【今後取り組むべき課題】

体力合計点が市平均及び全国平均を下回っている現状を踏まえ、全体的な体力水準の向上が必要である。特に男女共通の課題である持久力の向上を重点とし、体育授業における継続的な持久的運動の充実や、日常的に体を動かす機会の拡充を図る必要がある。また、男子においては走力や瞬発力、女子においては体幹筋力や投能力の向上を意識した指導の工夫が求められる。さらに、男子の運動不足傾向の改善に向け、運動が苦手な児童も参加しやすい取組を充実させ、運動の質と量の両面から体力向上を図っていくことが今後の課題である。